

令和8年9月29日

3年生保護者の皆様へ

加古川市立志方中学校

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果報告

4月に実施された全国学力・学習状況調査結果資料より得られる、本校生徒の結果及び概要を報告します。なお、この調査は学力の一部を調査するもので、この調査結果をもって生徒の学力全体を評価するものではありません。あくまで、学習指導や学習状況の改善に役立てることが目的となっております。

Ⅰ 学力調査の結果から

【国語】

平均正答率は、県や全国をやや上回る結果となりました。「思考力・判断力・表現力」に関する短答式問題では成果が見られた一方、記述式問題では無解答率が高く、自分の考えを言葉で説明・表現することをやや苦手とする傾向が見られました。

具体的には、発言について説明したものとして適切なものを選択する問題や文脈に即して正しく漢字を書き、漢字の組み合わせとして適切なものを選択する問題に成果が見られました。一方で、書いた文章について、交流を基にして文章のよい点や改善点などについて自分の考えを書く問題やタブレット内の情報から適切な表現を選ぶ問題には課題が見られました。

【数学】

平均正答率は、県や全国と同程度でした。「知識・技能」に関する短答式問題では、県や全国をやや上回っています。一方で、証明問題や数学的な表現を用いた説明など、「思考・判断・表現」に関する記述式問題に課題が見られました。

具体的には、正負の数の計算や確率、反比例のグラフの読み取りといった基本的な問題で成果が見られた反面、数学的に表現したことを解釈し問題解決の方法を数学的に説明したり、筋道を立てて証明したりする問題では無解答率がやや高く、課題が残る結果となりました。

【英語】

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域における平均正答率は、県や全国をやや下回る結果となりました。特に「書くこと」の領域に課題が見られます。「聞くこと」の領域では、日常的な話題について話を聞き概要を捉える問題で一定の成果が見られました。

一方、「話すこと」の領域では、県や全国とほぼ同程度でした。日常的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を話すことができるかどうかをみる問題については、馴染みのあるテーマで成果が見られた一方、身近であっても日ごろあまり考えたことがないテーマについて表現することには課題が見られました。

2 生徒質問紙の回答結果から

【生活面】

「人が困っているときは進んで助けますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、多くの生徒が肯定的な回答をしており、いじめを絶対に許さない姿勢や、困っている人を進んで助けようとする意識の高さがうかがえます。また、「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」の質問に8割以上の生徒が肯定的な回答をしたほか、「人の役に立つ人間になりたい」という質問には全ての生徒が肯定的に回答しました。さらに、朝食を毎日食べる、就寝・起床時間を一定にするなど、規則正しい習慣が定着している生徒が多いことがわかりました。

【学習面】

8割以上の生徒がタブレットを使って情報の収集や文章・スライドの作成ができると回答しており、「トライやる・ウィーク」やエネルギー教育の発表などでタブレットを活用してきた成果がうかがえます。また、国語や英語で学習したことが「将来役に立つ」と考えている生徒が9割近くにのぼる一方、数学に関しては7割弱にとどまりました。

3 今後の取組について

今回の結果から、各教科とも基礎的な知識や理解には一定の成果が見られるものの、「自分の考えを言葉や文章で表現すること」に共通の課題が見られました。今後は、日ごろの授業の中で、自分の考えを言葉や文章で表現する機会を大切にしながら、応用力や発信力を育てていくことを目指し、指導の充実を図ってまいります。

また、「学校が楽しい」「人の役に立ちたい」という前向きな意識や規則正しい生活習慣は、すべての活動の基盤となる強みです。今後は、こうした生徒たちの意欲をいかし、行事などを通して主体的に周囲と協働する力を育ててまいります。あわせて、そうした安定した生活・精神面を土台として、自分の考えを伝える力や、日々の学習・進路に向けた取組へとしっかりと結びつけていきたいと思えます。